

【総 説】

先天性サイトメガロウイルス (CMV) 感染の新展開

—妊婦の初感染・再発感染—

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：サイトメガロウイルス (CMV)，胎内感染率，
初感染，再感染，再活性化

要 旨

全出生児の約0.5%がCMVに胎内で感染する。妊婦の抗体保有率が下がると胎児の感染率も下がる。感染妊婦は普通、無症状であり、胎内感染児も90%は無症候性で、認識は小さい。しかし、症候性児の多くが精神遅滞、脳性麻痺などをきたし、無症候性も15%は難聴を主に後遺症をきたす。公衆衛生上、問題は大きい。再発感染することで実態解明が難しかった。近年の知見では初感染だけでなく再発感染も少なからず症候性出生や大きい後遺症をきたす。胎内感染をきたす再発感染は、潜伏株の再活性化より、異なる株の再感染の比重が大きいかもしれない。初感染妊婦やそのリスク者を検出する血清学的検査は、実施や判定に困難を伴う。むしろ出生児の感染スクリーニングに力を入れたい。抗体陽性妊婦にも抗体陰性妊婦と同様に感染防御の衛生手段を講じたい。

はじめに

サイトメガロウイルス（以下CMV）はヒトが遍く罹患する最右翼の病原ウイルスである。罹患時期は胎児期から生涯に亘る。移植患者や未熟児への輸血では重篤化しうるが、健康なヒトの感染の大部分は無症候性で、一部の単核症様症状や軽い肝炎などに止まる。

CMVは胎内感染病原として最多で、頻度は全出生児の約1%になる。感染出生児も幸い多くで問題は生じないが、一部は新生児期に死亡し、脳障害や視力障害の後遺症をきたし、殊に難聴は少なくない。言語習得前難聴の原因の1/4~1/3を占め、遺伝因子の中で最重要のGJB2遺伝子に比肩する¹⁾。

CMV胎内感染の公衆衛生上の重要性は高い。感染症なら感染防止対策は必ずやある。新生児聴覚スクリーニング開始を、先天性CMV感染再考の好機としたい。従来、妊娠中の初感染が強調さ

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科
連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613